

有明浜の海浜植物

有明浜の自然を守る

有明浜の海浜植物とアサギマダラ飛翔会 だより12号

有明浜の海浜植物とアサギマダラ飛翔会 発行

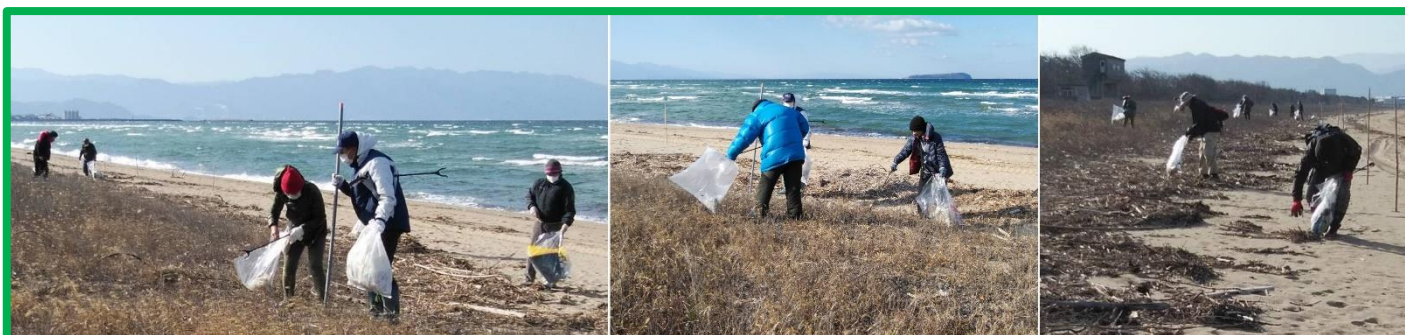


1.有明浜の清掃活動

2024年1月13日

有明浜 4番ゲートで18名の参加がありました。

強い西風が吹き付ける中、一生懸命にプラスチックごみを回収します。



2024年2月10日

有明浜 8番ゲートで19人の参加がありました。





2024年3月9日

有明浜 5番ゲートで16人の参加になりました。



集めたごみは軽トラックで運んでいくことになりました。最後にはコーヒータイムです。



2.写真展

2024年1月29日から2月3日まで開催され、場所は観音寺市共同福祉施設です。応募総数は119点、展示は109点。

テーマは香川アサギマダラと有明浜の海浜植物となりました。従来はアサギマダラに特化した写真展でしたが、今回は海浜植物も対象にしました。アツバスミレ・ハマウツボ・ハマエンドウ・スナビキソウ・ヒメケフシグロ・ハマゴウ・ハマボウフウなどが集まりました。表紙を参照。





【一歌ちゃんコーナー】

アサギマダラの飼育記録と題して、太田一歌ちゃんは小学生1年生から捕まえた蝶の標本を作るようになったとか。倉敷市自然博物館の先生やSNSで教えてもらったり、2023年には11種類の蝶を飼育しました。それら飼育の時に注意したことを紹介してくれました。





【伊吹島コーナー】

児童生徒らが篠原先生とともに活動してきた観察の記録がとてもわかりやすくまとめられていました。伊吹小・中学校ジオサイト学習の取り組み「人・ジオ・アサギマダラが地域を紡ぐ」では伊吹島にアサギマダラをよぼうプロジェクト 2013～2022 ではジオサイトの意義、取り組みの紹介がありました。



アサギマダラアートの展示

方法1 羽根の右に鑑賞した日にちを書く

K	K	S	24	1	29	シノ
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
香川県	観音寺市	坂本町	2024年1月29日		名前	

方法2 羽根の左に感想や願いを書く

方法3 両面テープをはがして張り付ける



3.講演会

開催日時 2024年2月3日(土)13時より
開催場所 観音寺市共同福祉施設 2F 軽運動室



まず、有明浜の海浜植物とアサギマダラ飛翔会の高畠会長から挨拶です。

絶滅の恐れがある希少植物の保護や生息地の保全をはかり外来種の防除にも努めていきたいと思っております。有明浜は私たちの観音寺の市民の聖地であります。

私たちは70名のボランティア団体として日々活動しております。どうか、今後ともよろしく願いいたします。

続いて、ご来賓の香川県交流推進部交流推進課 課長 岩崎氏です。

本日お集りの皆様をはじめ、地元の皆様には琴弾公園の日常の管理・保全に日頃から格別のご協力・ご理解を感謝申し上げます。琴弾公園につきましては豊かな自然環境、地元の皆様の憩いとやすらぎの場として、また、県内外から多くの人々を呼び込む貴重な観光資源となっています。



■香川県交流推進部交流推進課 副主幹 梶田嘉宣氏
「県立琴弾公園の維持管理について」



琴弾公園は香川県観音寺市にあり国の名勝に指定されています。昭和31年5月1日に瀬戸内海国立公園に指定。寛永通宝の銭形砂絵は山の頂からちょうどよく見えます。面積は高松市の栗林公園の半分くらいです。

施設として市民や観光客をおもてなしするための多目的広場や音楽ホール、休憩場、藤棚、ドライブウェイから上がり銭形砂絵を見下ろせる展望台などがあります。

また、今年の3月16日には瀬戸内海国立公園の指定90周年を迎えます。



琴弾公園の歴史

- ▶ 明治30年12月 1日 県立公園として開設
- ▶ 昭和11年12月16日 名勝に指定
- ▶ 昭和31年 5月 1日 瀬戸内海国立公園に指定
- ▶ 昭和31年10月15日 都市公園に指定

琴弾公園の概要

- ▶ 面積 38.6ha
- ▶ 種類 特殊公園（風致公園）
- ▶ 施設 多目的広場、遊具広場、休憩所、琴柱池、噴水、藤棚、展望台、公衆トイレ、駐車場、音楽ホール（市）、動物舎（市）

琴弾公園の日常的な維持管理（1）、松原を守る維持管理（2）。日常的なことは園内の清掃管理、海岸清掃、トイレ清掃になります。有明浜が公園区域に入っています。海岸では主に有明浜を清掃しゴミや漂着物を拾っています。松原箇所は除草を行い、琴柱池周囲の木々剪定も行っています。

琴弾公園では松くい虫が発生しています。10年ほど前に比べると被害は沈静化しているが、年間に80本前後の松が枯れています。これをなるべく抑えていきたいと考えています。松くい虫の被害と言うのは、松の幹に線虫が入り、松の導水管に影響を与え水があがらなくなり、松を枯らしてしまうメカニズムです。

マツノマダラカミキリを駆除するのが薬剤散布になります。5月6月の2回薬剤散布をしてマツノマダラカミキリを駆除しています。気象条件にもよりますが、渇水とか高温が続くとその翌々年とかに影響が出てくることもあります。引き続き、松くい虫対策は行っています。

琴弾公園の維持管理（1）

- ▶ 1 維持管理業務
 - ▶ ①園内清掃
 - ▶ ②海岸清掃
 - ▶ ③トイレ清掃
 - ▶ ④除草
 - ▶ ⑤生垣剪定

琴弾公園の維持管理（2）

- ▶ 2 松くい虫被害対策
 - ▶ ①薬剤散布
 - ▶ ②樹幹注入
 - ▶ ③伐倒駆除（搬出）※除根含む
 - ▶ ④伐倒駆除（くん蒸）

施設は老朽化していることもあり、計画的に改修を行っています。平成30年度から網羅しています。広い公園であり施設の数も多くあり、優先順位をつけながらやっています。

そして、今後の展望になります、ご覧ください。

琴弾公園の施設整備

- ▶ 平成30年度 遊具広場休憩所改修
- ▶ 令和元年度 琴柱池東側橋梁改修
- ▶ 令和2年度 照明灯設置
- ▶ 令和3年度 視線誘導標設置（ドライブウェイ下り）
- ▶ 令和4年度 交差点区画線改修
- ▶ 令和5年度 浴日館周辺園路改修
- ▶ 桜広場サクラ植栽

今後の展望

- ▶ 松原の適正保全（松くい虫被害の沈静化）
- ▶ 利便性の向上（園内トイレの洋式化）
- ▶ 計画的な施設整備（公園施設長寿命化計画）

続いて、もう一人の講師は宇和島市の久保政文先生です。

■宇和島市 久保政文先生

「アサギマダラに魅せられて」

久保先生はアサギマダラを専門にしているわけではなく、ミカン農家だそうです。小学校の授業としてアサギマダラについて教えています。私の発表が皆さんの今後の活動にお役に立てばと思っています。

アサギマダラは春は北へ、秋は南へ移動していきます。初めてアサギマダラに出会ったのはミカン園で極早生という品種を取りに山へ上がっていて、手伝いをしていていた人が昆虫に詳しく、「あれはアサギマダラと言う蝶です」と教えてくれた。

久保先生はプレゼン慣れしています。ノートパソコンとリモコンを操作しながら、画面を切り替えていきます。



フジバカマは白色と紫色っぽいのがありますが、どちらに多くアサギマダラが吸蜜するか、いろいろ論争はありますが違いはないと思います。

南北に移動するのを先生は水平移動と呼んでいます。春の飛行ルートと秋のルートがあります。春はスナビキソウの開花と共に北上します。太平洋側にはほとんどスナビキソウはないのです。有明浜のスナビキソウはとても貴重なのです。だから保護していくことは大切なことなのです。



佐賀関でマーキングされたアサギマダラはどこに行っているのか？不思議なことに姫島にはいない。一方、姫島でマーキングされた蝶は佐賀関にはいない。



四国西南を起点とするアサギマダラの秋の南下移動図です。

長野県は愛知県滋賀県京都府を通り淡路島へ、白山も同じように京都府を通ったり日本海側を通ったり、中国山地に渡ってきている。



四国の南西部にはかなりの数が集まっているように思われるけど、マーキングした蝶の数であって全体の数ではありません。

蝶は一定方向に進むのではなく北へ行ったり、南へ行ったりします。



次に、アサギマダラの垂直移動についてです。宇和島市の裏に 1200m の山があります。そこに高山植物が咲くのですが、4 月下旬に咲く桜がありそこでアサギマダラが見つかる。ちょっと考えられませんね。と言うことはどこかにアサギマダラがいることになります。

久保先生はアサギマダラの飛び方を知っているからこそ見つけることができたのです。普通の人なら見過ごすのではなかろうか。



アサギマダラは移動するのもいるけど、春に羽化して蝶になり、そのままそのあたりにいて夏場を涼しい所で過ごしながらか、もし、雄・雌がいたなら交尾して産卵して蝶になるというのも考えられる。

1 例だけ神奈川県の記事があります。春生まれたのが年に 2 回・3 回孵化を繰り返してそれから移動している。

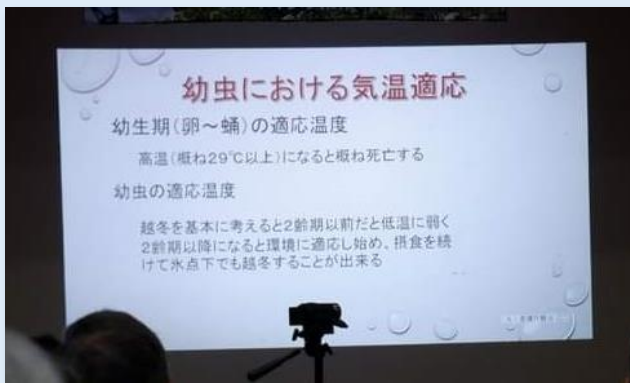


棒グラフを見せながら、2021 年のデータで 1 日に 300 頭ぐらい確認できました。10 月 10 日ぐらいで飛来のパークを迎える全部で 3400 頭ぐらい。30℃を切るあたりがひとつの目安です。北西の風が吹き始める頃、ある程度、風が強くなってくると渡りの量も多くなっていく。

残暑が厳しく平地は気温が高い。飛んでいる蝶の数は変わらないかもしれないが、平地におりてくる蝶が少なかった。飛来数と気温はかなり関係があり、風の吹き方がわかってくると飛来数の予測が立てやすくなる。



アサギマダラは嗅覚が発達していて、空気中に上がってきたピロリジジナルカロイド成分の匂いを追いかけて高い所からおりてくる。上昇気流で上がった匂いにおりてくるのではないかと考えています。



アサギマダラは1m～1m50 ぐらいの高さに産卵する。習性だと思います。幼生期（卵～蛹）の適用温度は概ね 29℃以上になると死亡する。幼虫の適用温度は越冬を基本に考えると、幼虫 2 齢期以前だと低温に弱く 2 齢期以降になると環境に適応し始め、摂食を続けて氷点下でも越冬が可能になります。

久保先生の撮影したサギマダラの羽化動画を見せてくれました。大変貴重な動画をありがとうございました。

だより表紙に使う写真を募集しています。
詳しくは泉宮まで。



広告



Wellnest
ENGINEERING



石川組

4.有明浜の海浜植物シリーズ(第5回)

ハマウツボは香川県内で滅多に見ることができない希少種です。海辺の砂浜にはえたカワラヨモギの根に寄生します。葉・茎に葉緑素がなく、葉は退化。花穂の形が矢を入れるうつぼに似ていることからハマウツボと名前が付けました。



だより12号は広報誌編集委員が作成しました
2024年4月発行

ホームページ